

留学白書 2019



2020.7.3

留学支援共同利用センター

『留学白書 2019』について

東京外国語大学が2014（平成26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプB:グローバル化牽引型）に選定され、6年が経ちました。申請で掲げた留学に関する目標は、学生が卒業までに一人2回留学する、「留学200%」です。その目標を達成するために、本学の学生がどのような留学を行っているのかを確実に把握することが必要となり、本白書の作成が始まりました。

その目的の下、本学の留学状況をまとめた留学白書も6冊目となりました。2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、海外に留学中の学生にも大きな影響がありました。留学を途中で切り上げて帰国することになった学生も多くいました。また、こうした事態に迅速に対応するために大学としてどのような体制をとるべきであったのか、多くの検討課題が出てきました。『安心で安全な留学』を実現するために引き続き、危機管理体制の改善を進めていきます。

なお、本『留学白書 2019』は7章から成っています。I章からVI章が分析編、VII章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2020年7月

留学支援共同利用センター

目次

分析編

I. 留学の種類	6
1. 長期留学	6
① 交換留学（学部、大学院）	6
② 休学留学（学部）	6
③ 自由留学（学部）	7
④ 長期インターンシップ等（学部、大学院）	7
⑤ 長期研究留学（大学院）	7
⑥ 海外フィールドワーク等（大学院）	7
2. 短期留学	8
① ショートビジット（学部、大学院（修士））	8
② スタディツアー（学部）	8
③ 短期インターンシップ（学部、大学院）	9
④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）	9
⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）	9
II. 2019年度 留学状況について（概要）	10
III. データから見える課題について	14
IV. 2019年度 留学状況	15
1. 学部学生（長期・短期総合）	15
① 留学者総数	15
② 学年別・期間別留学者数	15
③ 2014年度から2018年度の期間別留学者数の推移	16
④ 学部別・期間別留学者数	16
2. 学部学生（長期留学）	18
① 留学種別・留学開始年度別長期留学者数	18
② 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）	18
③ 留学種別長期留学者数の推移	19
④ 留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合	20
⑤ 学生交流協定校数と交換留学者数の推移	20

⑥留学先地域別・留学種別長期留学者数	21
⑦留学先地域別長期留学者数の推移	22
⑧留学先国別・留学種別長期留学者数	23
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況	25
⑩2018年度長期留学者の単位認定状況	27
【参考】新型コロナウイルスの影響により留学期間を短縮した学生	27
3. 学部（短期留学）	28
①留学種別短期留学者数	28
②学部別・留学種別短期留学者数	28
③留学年度別・留学種別短期留学者数の推移	28
④留学先地域別・留学種別短期留学者数	30
⑤留学先地域別短期留学者数の経年変化	30
⑥留学先国別・留学種別短期留学者数	31
⑦短期留学者の単位認定状況	32
⑧短期留学者の奨学金受給状況	33
⑨短期留学と交換留学者の相関について	33
4. 大学院生（短期・長期）	34
①大学院生の長期留学について	34
②大学院生の短期留学について	34
③大学院生の奨学金受給状況	35
V. 2019年度学部卒業時点での留学状況について	37
①卒業生の在学中の長期留学回数	37
③2017年度、2018年度と2019年度の卒業生の留学状況の比較	38
VI.SGU指標（2020年6月 フォローアップ調査）	39
資料編	44

分析編

I. 留学の種類

本学では、長期留学で6つ、そして短期留学で5つ、留学の種類を分類しています。白書では、この11のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

※新型コロナウイルスの影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2020年1月1日現在で、本学が学術交流協定を締結している71カ国・地域の217の教育機関のうち、164の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。例年、前年の10月に公募、11月に選抜、12月に決定のスケジュールをとっています。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2019年度出発の交換留学では265人中192人（うち4人大学院生）の派遣者が奨学金を受給しており、うち166人（うち4人大学院生）にJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、家計基準や本学での学業成績（GPA）が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

②休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行っている留学です。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が行える留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必ずしも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

③ 自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

④ 長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業※大学推薦プログラム」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN 諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN 諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN 諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。本事業は、2021年度まで実施されることになっています。

⑤ 長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学をするものです。単位認定はありません。コチュテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチュテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関との双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

⑥ 海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究を行うものです。

2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

① ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学科目」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の8つの言語です。

全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ハノイ国家大学・人文社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	カイロ大学またはアリー・バーバー・インターナショナルセンター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	1年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	2年次冬学期

② スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」に登録して履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

■2019年度実施スタディツアー■

- 「アジア太平洋地域に築く平和で包摂的な社会」——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- ムンバイでスラムとソーシャルワークを学ぶ——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- 国連研修プログラム
- マレーシア・スタディツアー

※例年実施している「ウズベキスタン・スタディツアー」は新型コロナウイルスの影響により2019年度は中止となりました。

③ 短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。参加にあたっては、「グローバルビジネス講義」を履修しているものが優先されます。

■2019 年度実施短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）
- 矢崎投資有限公司（中国）
- PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia（インドネシア）
- AYANA HOTEL & SPA and RIMBA JIMBARAN by AYANA（インドネシア）
- FIDR（国際開発救援財団）（カンボジア）
- マツダメキシコ（メキシコ）

※Toyota Motors Philippines Corporation でのインターンシップは、タール火山の噴火の影響により 2019 年度は中止となりました。

④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。言語文化学部グローバルコミュニケーションコースや大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

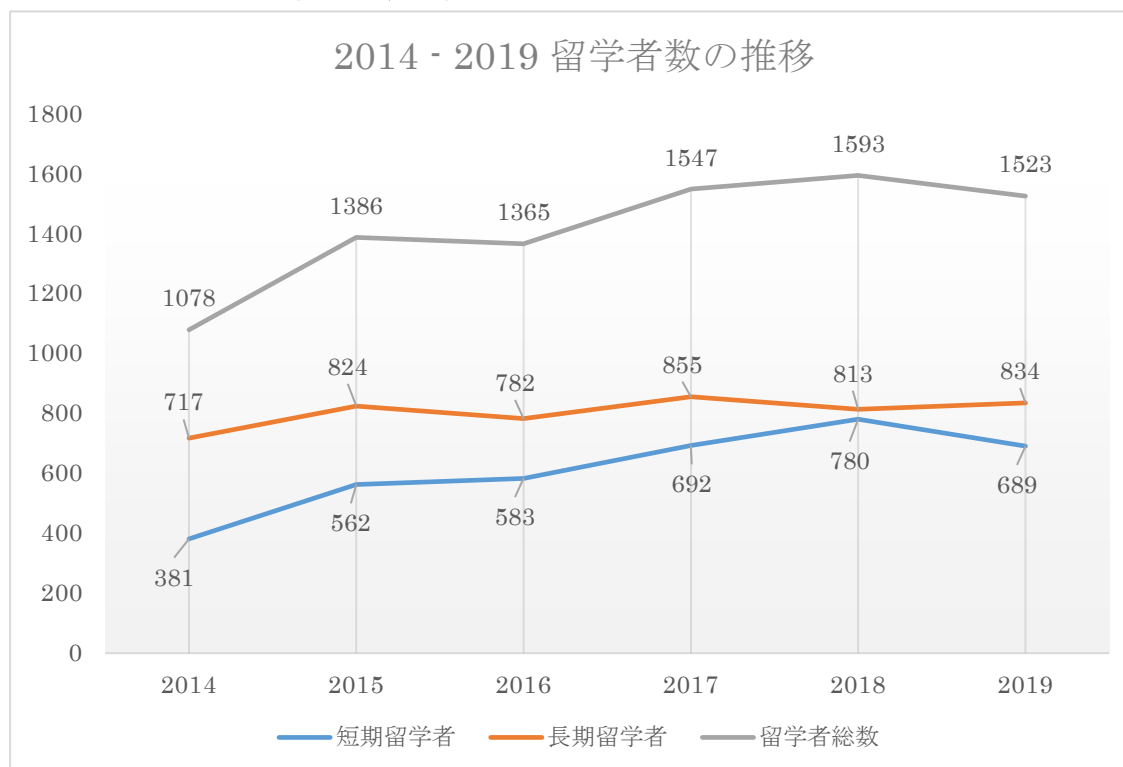
Ⅱ. 2019 年度 留学状況について（概要）

2019 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の傾向がありました。長期留学者については、2019 年度出発者、2019 年度内に帰国した者の合計です。

Table 1. 2019 年度短期、長期留学者数

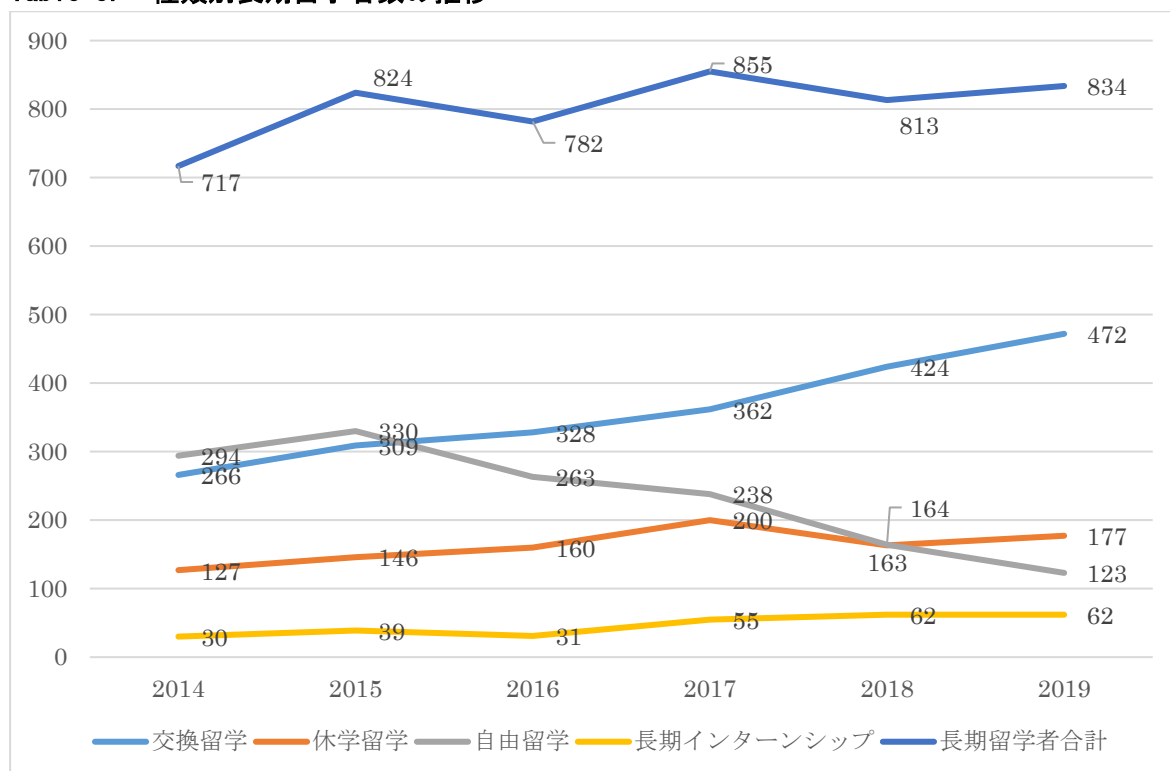
留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	689	834	1,523	3,880

Table 2. 2014-2019 留学者数の推移



留学者総数は、2018 年度と比較すると若干の減少となりました。これは、主に、新型コロナウイルスの影響によるものです。冬学期の短期海外留学プログラムに大きな影響があったため、前年度に比べて短期留学者数が大きく減少しました。他方で、長期留学者数は前年度に比べると若干の増加となっています。

Table 3. 種類別長期留学者数の推移



① 長期留学者数合計について：昨年度比 21 名増加しました。

交換留學生は過去最高の 472 名となりました。全体の休学者数（休学留学・自由留学）が昨年度に比べ 27 名減少しており、交換留学の枠が増えたため、相反して休学して留学するものの数が減少したと思われます。

② 長期留学 種類別における傾向

休学して留学するもののうち、今年度は単位認定を伴う休学留学の人数が自由留学の人数を上回りました。これは、単位認定を伴う留学の場合、大学指定の海外留学保険（市販の保険に比べて安価）への加入を可能とする措置が取られたことが大きな要因と考えられます。

長期インターンシップに参加する学生数は昨年度と同じでした。昨今のインターンシップへの関心の高まりを受けて、引き続き、拡大傾向が続くものと思われます。

給付型奨学金受給状況

交換留学、その他で分けた場合の受給状況は以下のとおりです。交換留学では、およそ8割弱の学生が何らかの奨学金を得ているのに対して、休学、自由留学等では、受給者は15%程度となっています。交換留学生在が受給している奨学金のうち89%はJASSOの奨学金です。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）

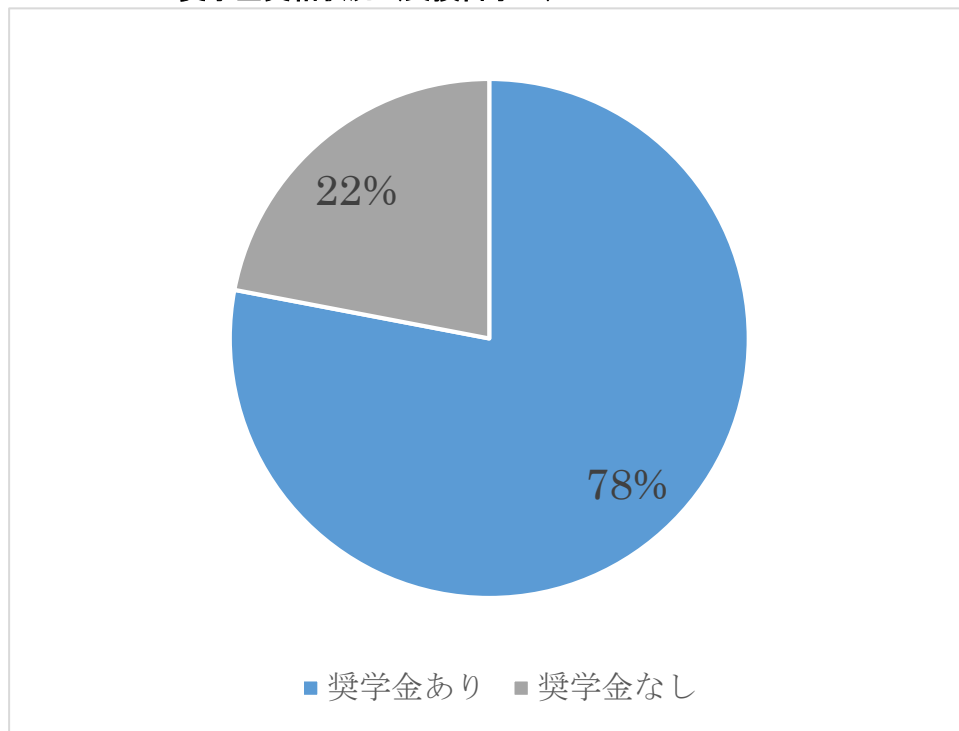


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）

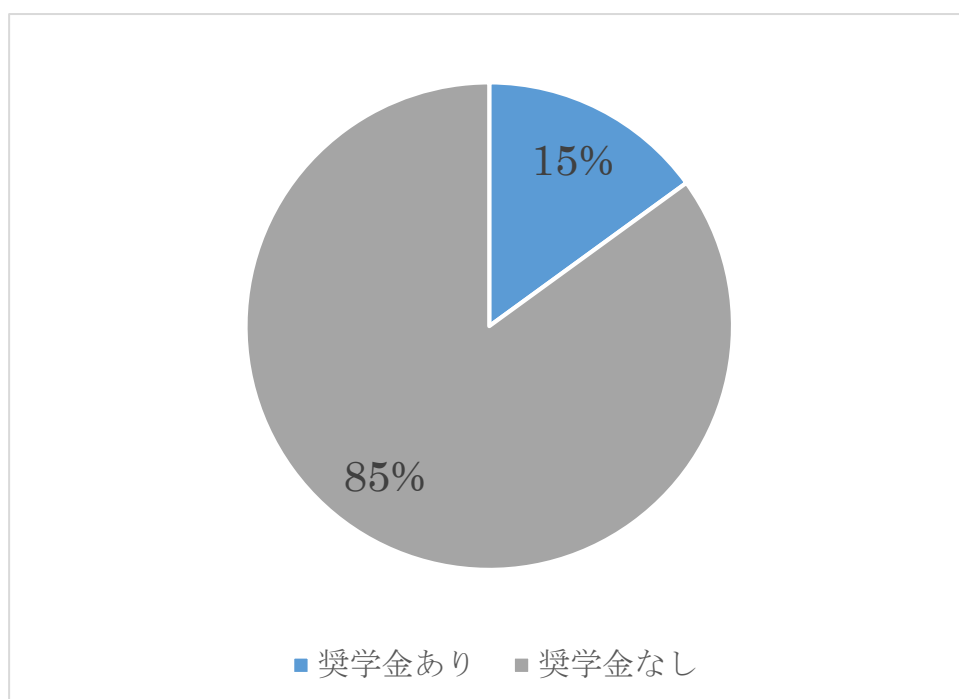
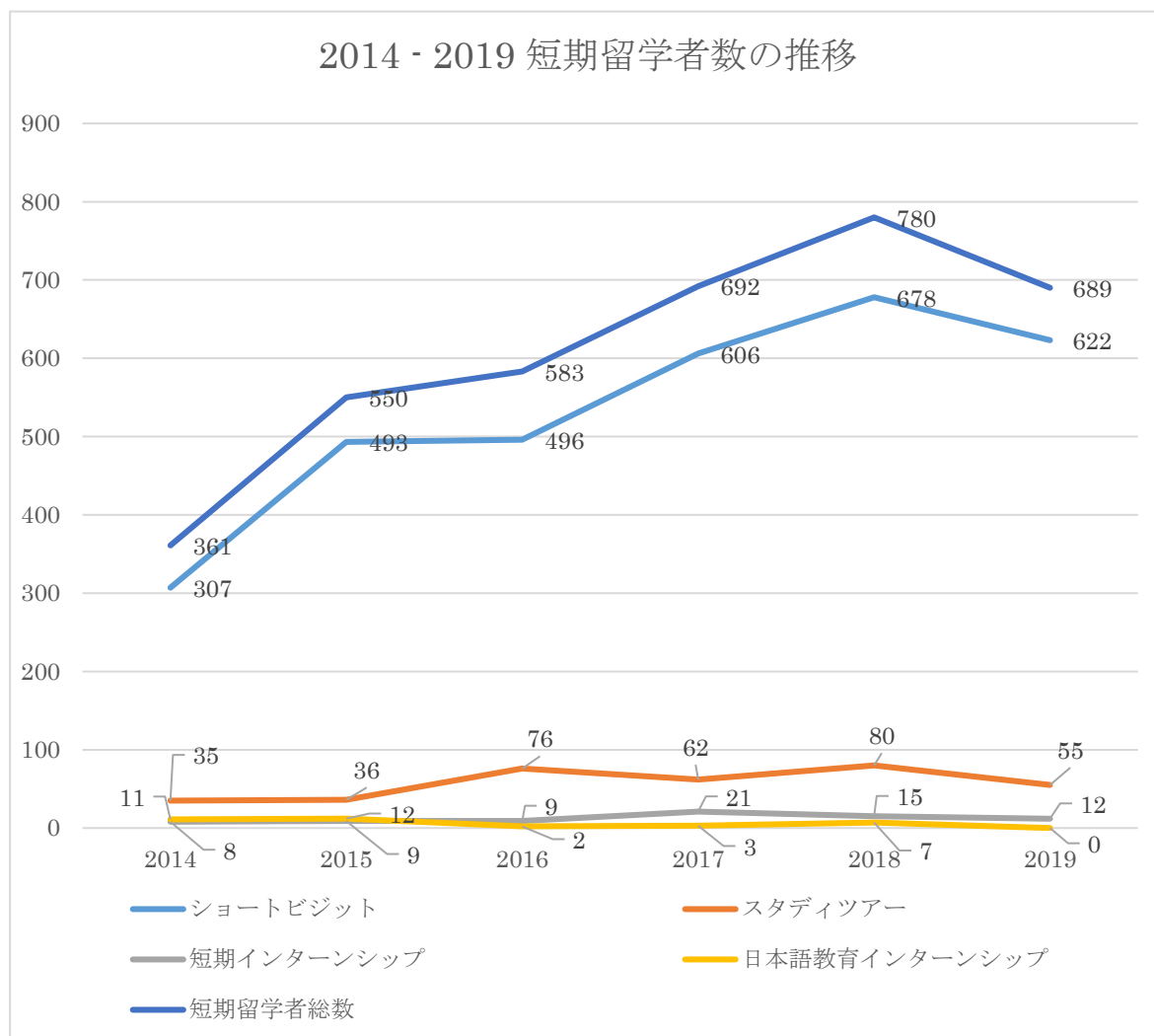


Table 5. 2019年度短期留学者数（2020.4.20現在）



	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ショートビジット	307	493	496	606	678	622
スタディツアー	35	36	76	62	80	55
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689

●短期留学者数合計について：新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、前年度に比べてショートビジットへの参加者が減少し、日本語教育インターンシップ、一部のスタディツアーも中止となりました。そのため、合計人数としては100名弱の減少となっています。

ショートビジットは、2014年度から毎年順調に参加人数を増やしてきました。今年度も新型コロナウイルスの影響がなければ、昨年度同水準の参加人数を維持していたと思われます。

Ⅲ. データから見える課題について

①長期留学の種類について

単位認定のない自由留学者の数が減少傾向にあり、交換留学者、単位認定の申請を行う休学留学者の数が右肩上がりとなっているのは、好ましい傾向と言えます。単位認定のある形の留学を推奨していくため、安価で加入できる学研災海外旅行保険対象者の範囲を、2019年度より休学留学者にも拡大しましたが、その措置が奏功していると考えられます。今後も海外の教育機関に留学をする学生に対しては、単位認定を行う形での留学(休学留学)を推奨していきます。

②留学の単位認定について

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをしない学生が多い点です。取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行うことが必要です。単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています(休学留学の場合は、休学終了後1年以内)。そのため、2017年度に留学に出発した学生の単位認定は、2018年度または2019年度に行われることになります。

留学白書 2017 に掲載されている交換留学者・休学留学者(2017年度に帰国した学生および出発した学生)の単位認定状況は以下のとおりです。

留学白書 2017 掲載者の単位認定状況

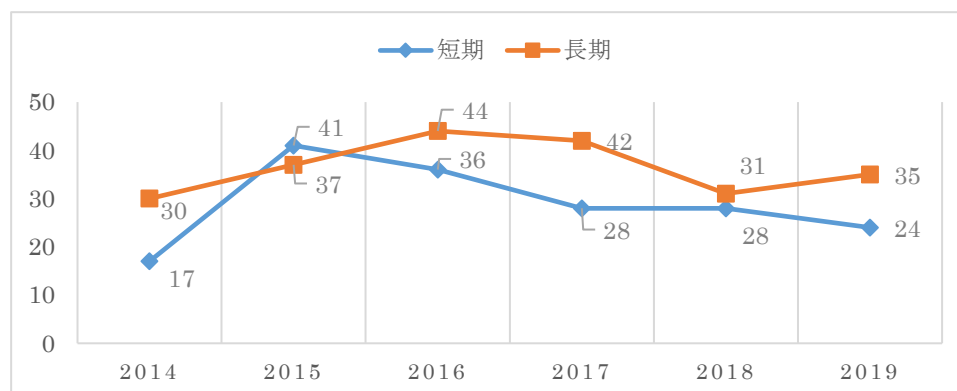
留学種類	留学者数	うち単位認定有 (2019年度末まで)	単位認定者率
交換留学	362	268	74%
休学留学	200	113	57%

留学から帰国後しばらくたった後に単位認定の手続きを行う学生もいるため、上記の数は変更が予想されますが、交換留学者のうち7割以上の学生が単位の認定を行っていますが、休学留学者の単位認定率は57%にとどまっています。

③大学院生の留学について

大学院生の留学の数は過去5年間でほとんど伸びが見られず、短期留学については減少傾向が見られます。夏学期・冬学期の短期留学(ショートビジット)プログラム数は増えており、大学院生向けのレベルの高いプログラムも用意されています。大学院生にも積極的に参加するよう呼びかけが必要です。

2014年度から2019年度の大学院生の期間別留学者数の推移



IV. 2019 年度 留学状況

1. 学部学生（長期・短期総合）

①留学者総数

2019 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2019 年度留学者総数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	689	834	1,523	3,880

2019 年度（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 834 人、短期留学者 689 人の、合計 1,523 人です。2018 年度は合計 1,593 人でしたので、70 人減となります。2018 年度には、全学生の 41%が留学を経験しましたが、2019 年度には 39%の学生が留学を経験したことになります。長期留学者数には、2018 年度以前に留学を開始し 2019 年度中に帰国したものと、2019 年度中に出発して帰国したもの、また 2019 年度中に出発して 2020 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。

②学年別・期間別留学者数

2019 年度の渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。

Table 6. 学年別・期間別留学者数（太字は 5 割を超えた数）

学年	短期	学生総数 中の短期 留学者数 の割合	長期	学生総数 中の長期 留学者数 の割合	留学者 総数(人)	留学者数 の割合	学生総数 (人)
1	425	52%	6	1%	431	53%	812
2	217	25%	38	4%	255	29%	874
3	29	3%	628	70%	657	73%	900
4	18	1%	162	13%	180	14%	1,294
合計	689	18%	834	21%	1,523	41%	3,880

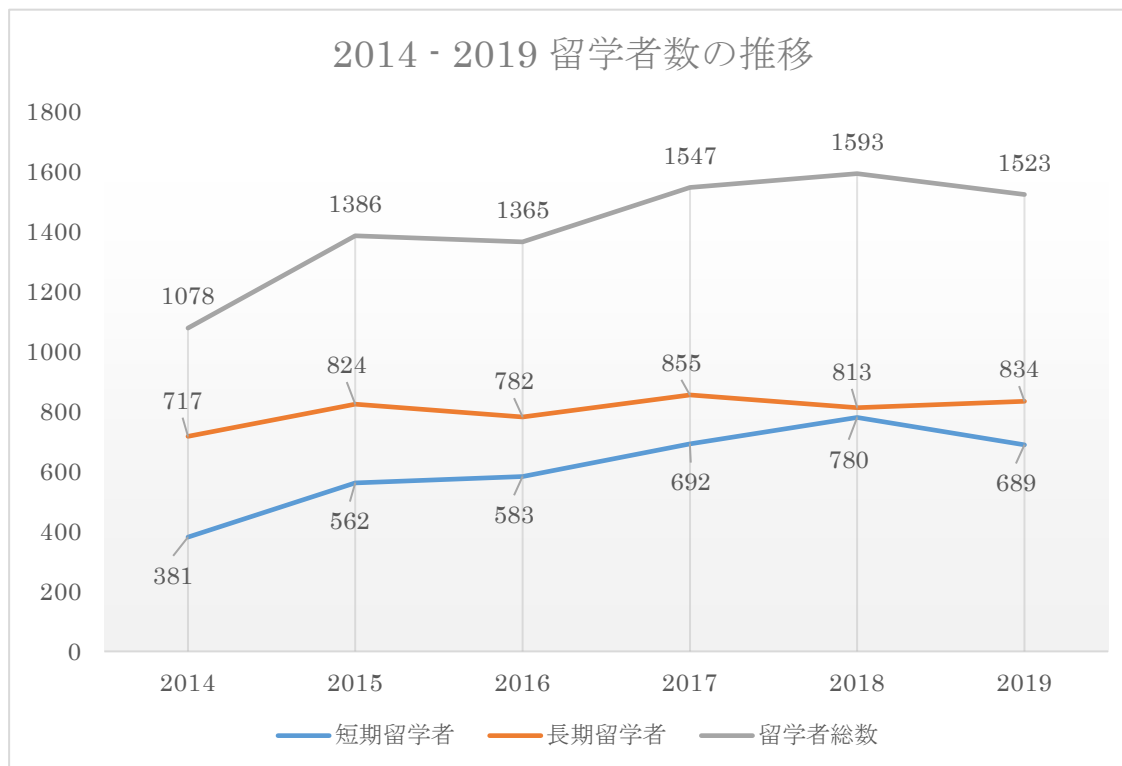
2019 年度の留学者総計 1523 人中 61 人は年間に 2 回、2 人は 3 回の留学をしています。このため、のべ数は 1,523 人、実数は 1,458 人です。1,458 人という数値は、2019 年度の学部学生総数 3,880 人の 38%となります（昨年度比+0%）。

短期留学には 1 年生が、長期留学には 3 年生が多く参加していることがわかります。2019 年度には、半数以上の 1 年生が短期留学に、また半数以上の 3 年生が長期留学に参加しました。

③2014 年度から 2019 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2019 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

Table 7. 2014 年度から 2019 年度の期間別留学者数の推移

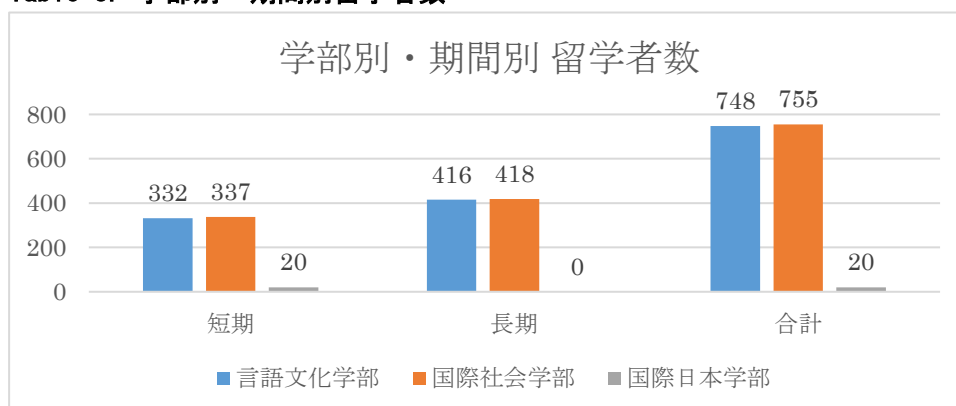


2019 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、冬学期のショートビジットプログラムをキャンセルする学生が多数いたため、短期留学者の数が前年度よりも減少しました。一方で、長期留学者は、前年度よりも若干増えています。

④学部別・期間別留学者数

学部別・期間別の分布は次のとおりです。

Table 8. 学部別・期間別留学者数



言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、2019 年度はほぼ同数となりました。国際日本学部は、2019 年度に開設されたため、長期留学者は出ていません。

⑤専攻言語別・期間別留学者数

専攻語ごとの留学率を見ると、半数以上が留学しているものがある一方、日本語専攻では、留学率は2割に満たない水準となっています。新型コロナウイルスの影響により、全員型プログラムが中止となったところは留学率に影響しています。

Table 9. 専攻言語別・期間別留学者数（留学者の割合が多い順）

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
イタリア語	134	39	29%	42	31%	81	60%
タイ語	85	23	27%	27	32%	50	59%
ベンガル語	48	17	35%	8	17%	25	52%
カンボジア語	45	16	36%	7	16%	23	51%
ペルシア語	69	18	26%	17	25%	35	51%
マレーシア語	59	19	32%	10	17%	29	49%
ビルマ語	47	10	21%	13	28%	23	49%
ポーランド語	72	11	15%	23	32%	34	47%
ポルトガル語	125	22	18%	36	29%	58	46%
ベトナム語	72	17	24%	16	22%	33	46%
ロシア語	299	54	18%	82	27%	136	45%
フランス語	284	53	19%	74	26%	127	45%
スペイン語	316	64	20%	73	23%	137	43%
フィリピン語	69	8	12%	20	29%	28	41%
ドイツ語	282	50	18%	62	22%	112	40%
朝鮮語	153	22	14%	37	24%	59	39%
ヒンディー語	108	25	23%	16	15%	41	38%
トルコ語	66	11	17%	14	21%	25	38%
ウルドゥー語	67	11	16%	14	21%	25	37%
アラビア語	143	26	18%	26	18%	52	36%
中国語	288	38	13%	65	23%	103	36%
インドネシア語	97	15	15%	19	20%	34	35%
モンゴル語	69	12	17%	12	17%	24	35%
英語	482	70	15%	93	19%	163	34%
チェコ語	70	7	10%	13	19%	20	29%
ラオス語	52	2	4%	9	17%	11	21%
日本語	279	29	10%	6	2%	35	13%
総計	3880	689	18%	834	21%	1523	39%

2. 学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

2019年度に留学を開始した学生は463人、うち交換留学学生が261人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が202人です。交換留学者が休学をしての留学者より59人ほど多くなっています。

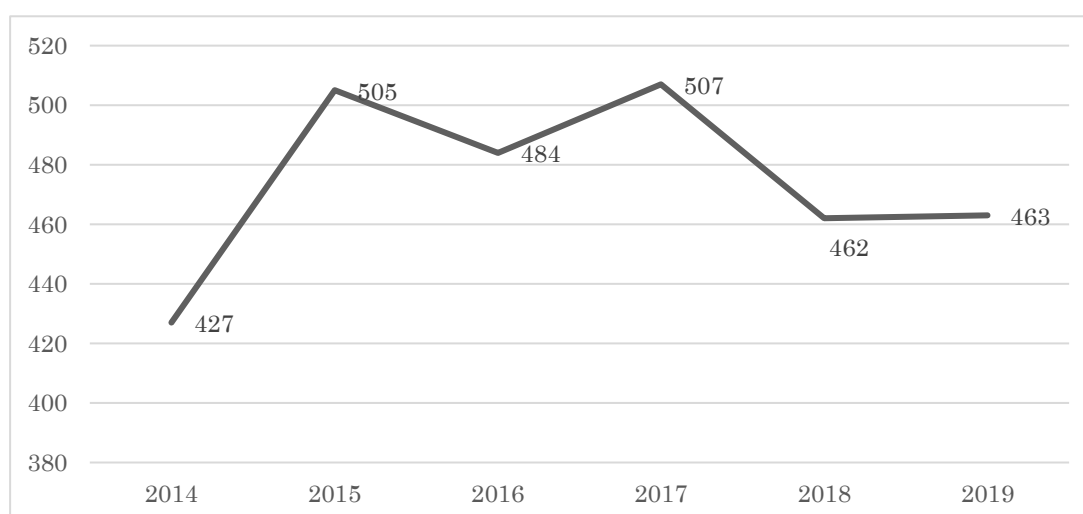
Table 11. 留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

	2018年度（前年度）出発者		2019年度出発者		合計
	2018年度出発、 2019年度帰国	2018年度出発、 2019年度留学中	2019年度出発	2019年度出発、 帰国	
交換	211	0	76	185	472
休学留学	67	0	35	75	177
自由留学	65	2	8	48	123
長期インターン	23	3	5	31	62
合計	366	5	124	339	834
	371		463		

②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。

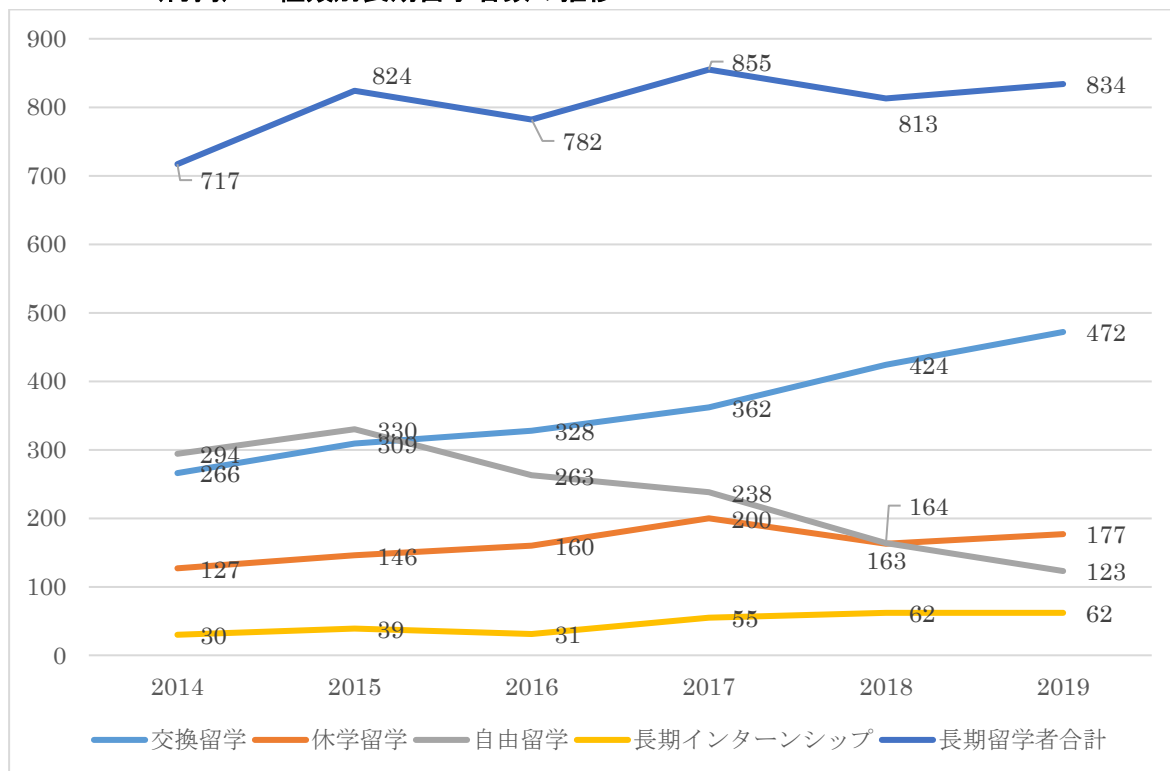
Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）



③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の2014年度からの6年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3. (再掲) 種別長期留学者数の推移



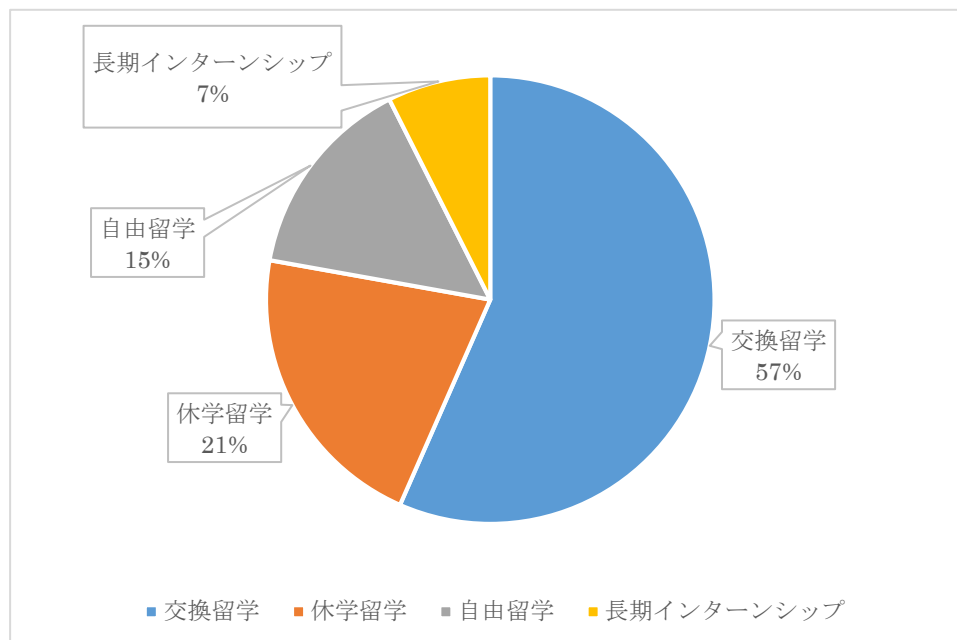
年度	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014年度	266	127	294	30	717
2015年度	309	146	330	39	824
2016年度	328	160	262	32	782
2017年度	362	200	238	55	855
2018年度	424	163	164	62	813
2019年度	472	177	123	62	834

長期留学者数が昨年度から21名増加し、交換留学者数は過去最高となりました。交換留学者数が増えるのと反比例して、休学をしての留学者数は減少しています。その中でも、自由留学者数は減少し、休学留学者数が増えています。本学では、交換留学→休学留学→自由留学の順に推奨しているため、種別の留学者数増減の傾向としては好ましいと言えます。

④留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。2018年に交換留学者数の割合が休学をしての留学者数の割合を上回りましたが、2019年度もその傾向がさらに強まりました。

Table 13. 種類別 長期留学者数の割合

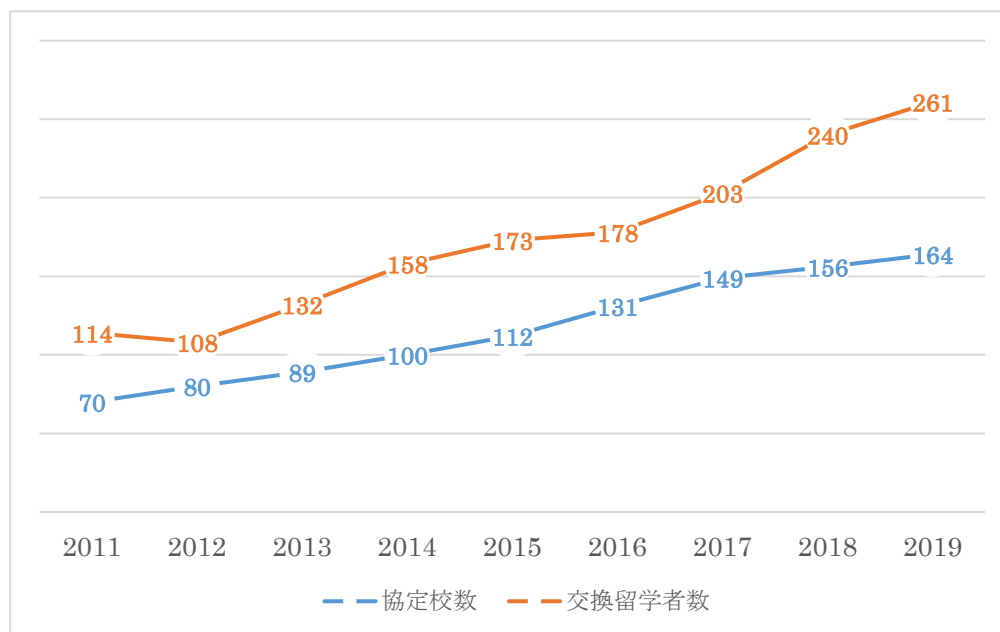


長期留学のうち、本学がもっとも推奨するのは、「交換留学」です。休学をして留学をする場合にも、単位認定申請のできる教育機関を選び、「休学留学」をすることを勧めています。2018年度までは、休学をして留学をする学生の中で、単位認定のない自由留学が単位認定ありの休学留学を上回っていましたが、2019年度は初めて、休学留学者数が自由留学者数を上回りました。

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

交換留学者数が伸びている理由の一つとして、学生交流協定校数が伸びている点が挙げられます。以下に、2011年度からの学生交流協定校数と、交換留学者数を示します。ここにある留学者数は、該当年度に出発した学生のみ数です（前年度出発者は含まない）。学生交流協定校数が伸びるのに比例して、交換留学者数も増えていることがわかります。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。2カ国・地域以上に留学している場合、最初に留学した国・地域でカウントしています。

Table 15. 留学先地域別・留学種類別長期留学者数

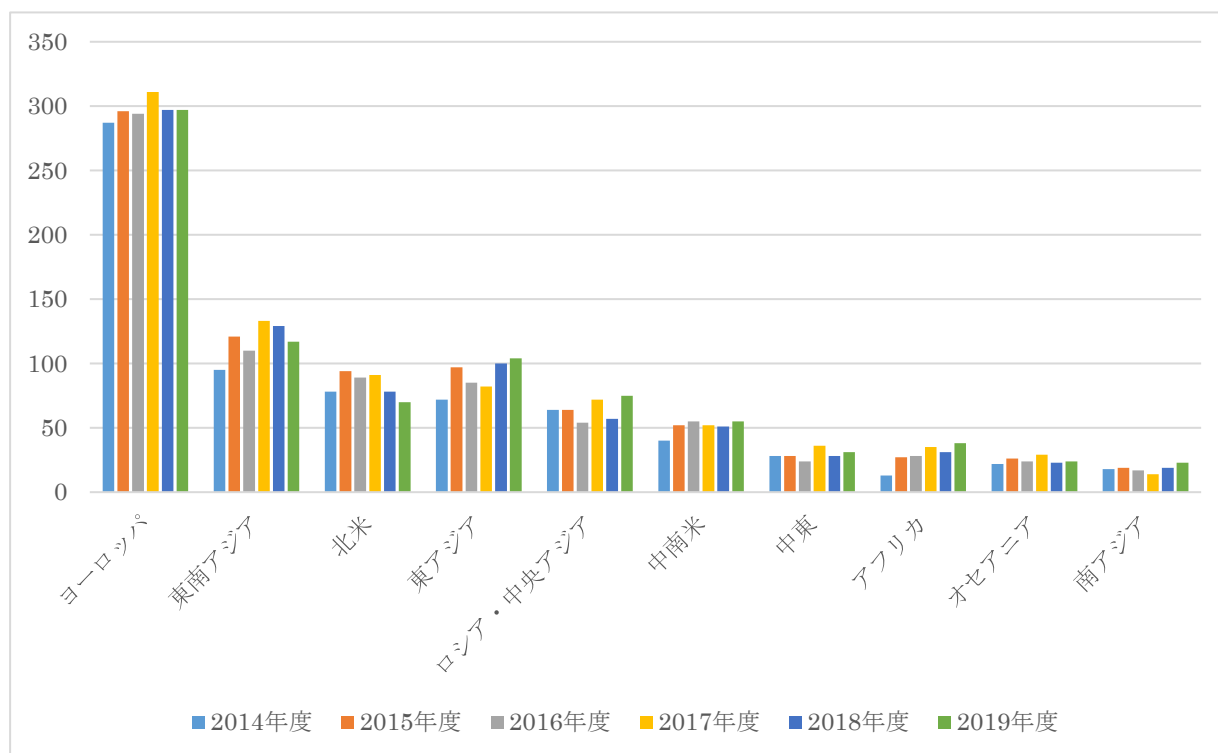
地域名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
ヨーロッパ	199	54	41	3	297
東南アジア	49	35	9	24	117
東アジア	65	28	10	1	104
ロシア・中央アジア	45	23	3	4	75
北米	35	10	22	3	70
中南米	35	8	3	9	55
アフリカ	16	4	7	11	38
中東	11	6	14	0	31
オセアニア	8	5	9	2	24
南アジア	9	4	5	5	23
合計	472	177	123	62	834

本学から長期留学をした学生数は、多い順にヨーロッパ、東南アジア、東アジアとなっています。オセアニア、南アジア地域への留学者数が少なくなっていますが、協定校が増加しており、今後交換留学でこれらの地域に留学をする学生が増えることが期待されます。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16. 留学先地域別長期留学者数の推移



留学先地域名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297
東南アジア	95	121	110	133	129	117
北米	78	94	89	91	78	70
東アジア	72	97	85	82	100	104
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75
中南米	40	52	55	52	51	55
中東	28	28	24	36	28	31
アフリカ	13	27	28	35	31	38
オセアニア	22	26	24	29	23	24
南アジア	18	19	17	14	19	23
留学者数合計	717	824	780	855	813	834

地域別の留学者数については、ヨーロッパが一番多く、次いで東南アジア、という傾向は、6年間変化がありません。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2015年度はドイツ、アメリカ、ロシア、2016年度はイギリス、アメリカ、ドイツ、2017年度はフランス、イギリス、ロシア、2018年度はドイツ、アメリカ、フランスの順で、2019年度はフランス、ロシア、アメリカ・ドイツの順でした。留学先は、2018年度の74カ国・地域から、2019年度は78カ国・地域に増え、広く世界に留学している状況が明らかになっています。

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インター ンシップ	合計
1	フランス	29	14	9	2	54
2	ロシア	33	16	0	1	50
3	アメリカ	26	9	11	2	48
3	ドイツ	35	5	7	1	48
5	中国	17	21	5	0	43
6	イタリア	24	7	5	0	36
7	韓国	27	4	2	1	34
8	イギリス	19	7	4	0	30
8	スペイン	23	4	3	0	30
10	タイ	15	7	0	5	27
11	インド	9	4	5	5	23
11	メキシコ	10	5	2	6	23
13	カナダ	9	1	11	1	22
14	ポーランド	5	11	5	0	21
14	台湾	16	3	2	0	21
16	フィリピン	5	7	5	3	20
17	オーストラリア	5	4	8	2	19
18	インドネシア	4	6	3	5	18
19	ポルトガル	15	1	0	0	16
20	ベトナム	6	6	0	3	15
21	ブラジル	13	1	0	0	14
22	アイルランド	10	1	2	0	13
22	エジプト	6	4	3	0	13
22	トルコ	11	1	1	0	13
25	ミャンマー	7	3	0	2	12
26	チェコ	10	1	0	0	11
27	マレーシア	2	6	1	1	10
28	イラン	0	0	9	0	9
28	スイス	8	1	0	0	9
30	カンボジア	3	0	0	5	8
31	ウズベキスタン	6	1	0	0	7
31	コロンビア	7	0	0	0	7
33	ベラルーシ	0	5	1	0	6
34	アルゼンチン	5	0	0	0	5
34	カザフスタン	5	0	0	0	5
34	ニュージーランド	3	1	1	0	5

34	ベルギー	4	1	0	0	5
34	ルワンダ	4	0	0	1	5
39	オーストリア	4	0	0	0	4
39	シンガポール	4	0	0	0	4
39	パレスチナ	0	3	1	0	4
42	オランダ	3	0	0	0	3
42	ケニア	0	0	0	3	3
42	スーダン	0	0	2	1	3
42	タンザニア	0	0	0	3	3
42	デンマーク	0	0	3	0	3
42	フィンランド	2	1	0	0	3
42	モロッコ	2	0	1	0	3
42	モンゴル	2	0	1	0	3
42	リトアニア	2	0	1	0	3
42	香港	3	0	0	0	3
42	南アフリカ	2	0	0	1	3
53	ザンビア	2	0	0	0	2
53	スロベニア	2	0	0	0	2
53	セネガル	0	0	1	1	2
53	セルビア	2	0	0	0	2
53	ボリビア	0	0	0	2	2
53	マルタ	0	0	2	0	2
53	ラオス	2	0	0	0	2
53	レバノン	0	0	2	0	2
61	アゼルバイジャン	0	0	1	0	1
61	アルメニア	0	0	1	0	1
61	ウガンダ	0	0	0	1	1
61	ウクライナ	0	1	0	0	1
61	オマーン	0	1	0	0	1
61	キューバ	0	1	0	0	1
61	キルギス	0	0	0	1	1
61	グアテマラ	0	0	1	0	1
61	クウェート	0	0	1	0	1
61	ジョージア	0	0	0	1	1
61	タジキスタン	0	0	0	1	1
61	トルクメニスタン	1	0	0	0	1
61	ノルウェー	1	0	0	0	1
61	パナマ	0	0	0	1	1
61	ブルガリア	1	0	0	0	1
61	ブルネイ	1	0	0	0	1
61	ペルー	0	1	0	0	1
61	ヨルダン	0	1	0	0	1
	合計	472	177	123	62	834

留学先国・地域数合計：78

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学者 472 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 366 人で、77.5%にのびります。ほとんどが JASSO（日本学生支援機構）の奨学金ですが、トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム奨学金や、留学先大学の奨学金など、様々な方法で支援を受けています。

2019 年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換 留学	休学 留学	自由 留学	長期イン ターン	合計
JASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度	323				323
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	13	8	4		25
ポーランド政府奨学金		11	5		16
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	14				14
中国政府奨学金		6	3		9
佐藤陽国際教育財団	6				6
日本語パートナーズ派遣事業（*）				6	6
恵国際交流財団	3				3
インド政府ヒンディー語奨学金		1	2		3
インドネシア政府奨学金（ダルマスワ）		2			2
JASSO+Erasmus	2				2
寺浦さよ子記念奨学会	2				2
JASSO+BGF フランス政府奨学金	1				1
Erasmus	1				1
埼玉発世界行き奨学金		1			1
経団連グローバル人材奨学金		1			1
鎗田邦男インダス会奨学金		1			1
米日カウンスル渡邊利三寄付奨学金		1			1
クイーンズランド州政府奨学金		1			1
クウェート政府奨学金			1		1
リトアニア政府奨学金			1		1
外務省「日本人学生等のインターンシップ支援事業」				1	1
日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画		1			1
江副記念リクルート財団奨学金			1		1
国際教育支援基金（本学）	1				1
平和中島財団日本人留学生奨学金		1			1
合計	366	35	17	7	425

（*）日本語パートナーズ派遣事業は厳密には奨学金制度ではありませんが、渡航にあたって経済的支援があることから、本書では奨学金制度のひとつとみなしています。

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

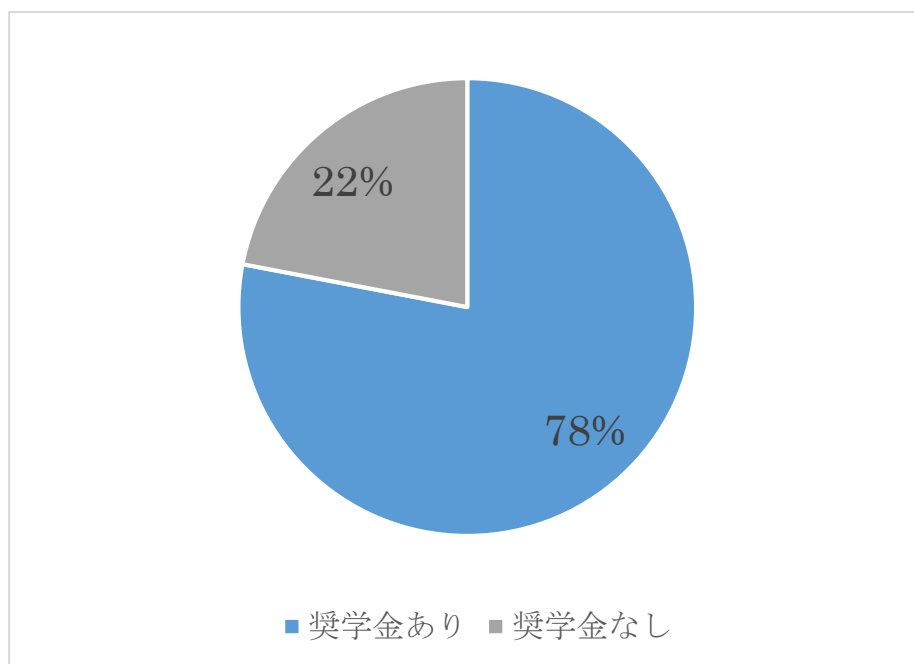
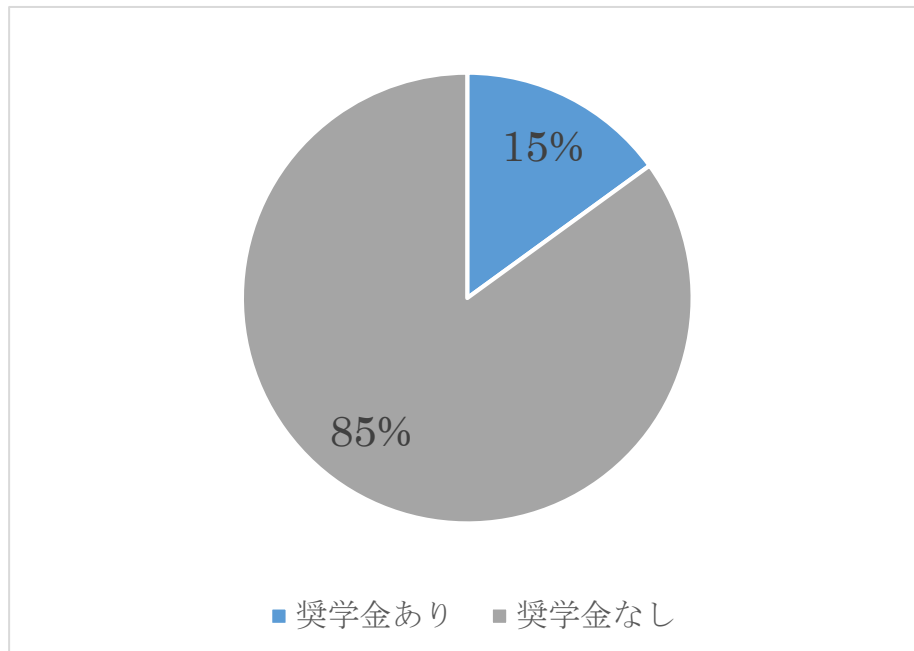


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方がはるかに受給率が高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19. 長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数 (人)	留学者合計 (人)	奨学金受給率
交換留学	366	472	78%
休学留学	35	177	20%
自由留学	17	123	14%
長期インターンシップ	7	62	11%
合計	425	834	51%

⑩2018 年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うこととなります。そのため、2019 年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2020 年度または 2021 年度に行われることとなります。

2018 年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2020 年 3 月 31 日現在以下のとおりとなっています。

Table 20. 2018 年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況 (2020. 3. 31 現在)

	単位認定済 (人)	単位認定未済 (人)	合計 (人)	単位認定実施率
交換留学	286	138	424	67.5%
休学留学	89	74	163	54.6%

JASSO の奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。JASSO の奨学金は、交換留學生のための奨学金です。

【参考】新型コロナウイルスの影響により留学期間を短縮した学生

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、多くの留學生が留学期間を短縮して早期に帰国するなどの影響が出ました。2019 年度の出発した学生のうち、新型コロナウイルスの感染拡大を理由に、留学期間を短縮した学生の数は、大学で把握している限り、全体で 281 名です。(交換留学：182、休学留学：74、自由留学：16、長期インターンシップ：9)

なお、早期帰国した学生は、留学先大学がオンラインでの授業を提供している場合は、帰国後もオンライン授業を受講している学生もいます。留学先に滞在するケースでも、ほとんどの大学で授業はオンラインで実施されています。

3. 学部（短期留学）

学部生の短期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別短期留学者数

短期留学への参加者数を留学種類別に見てみます。

短期 Table 1

留学種類	人数
ショートビジット	622
スタディツアー	55
短期インターンシップ	12
合計	689

②学部別・留学種類別短期留学者数

各学部の参加者数は、以下のとおりです。

短期 Table2

留学制度	言語文化	国際社会	国際日本	総計
ショートビジット	314	290	18	622
スタディツアー	14	39	2	55
短期インターンシップ	4	8	0	12
合計	332	337	20	689

スタディツアーには、国際社会学部の学生が多く参加しています。

国際日本学部は、2019年度に新設された学部で、他の2学部に比べると在籍者数が少ないため参加者数も少なくなっています。

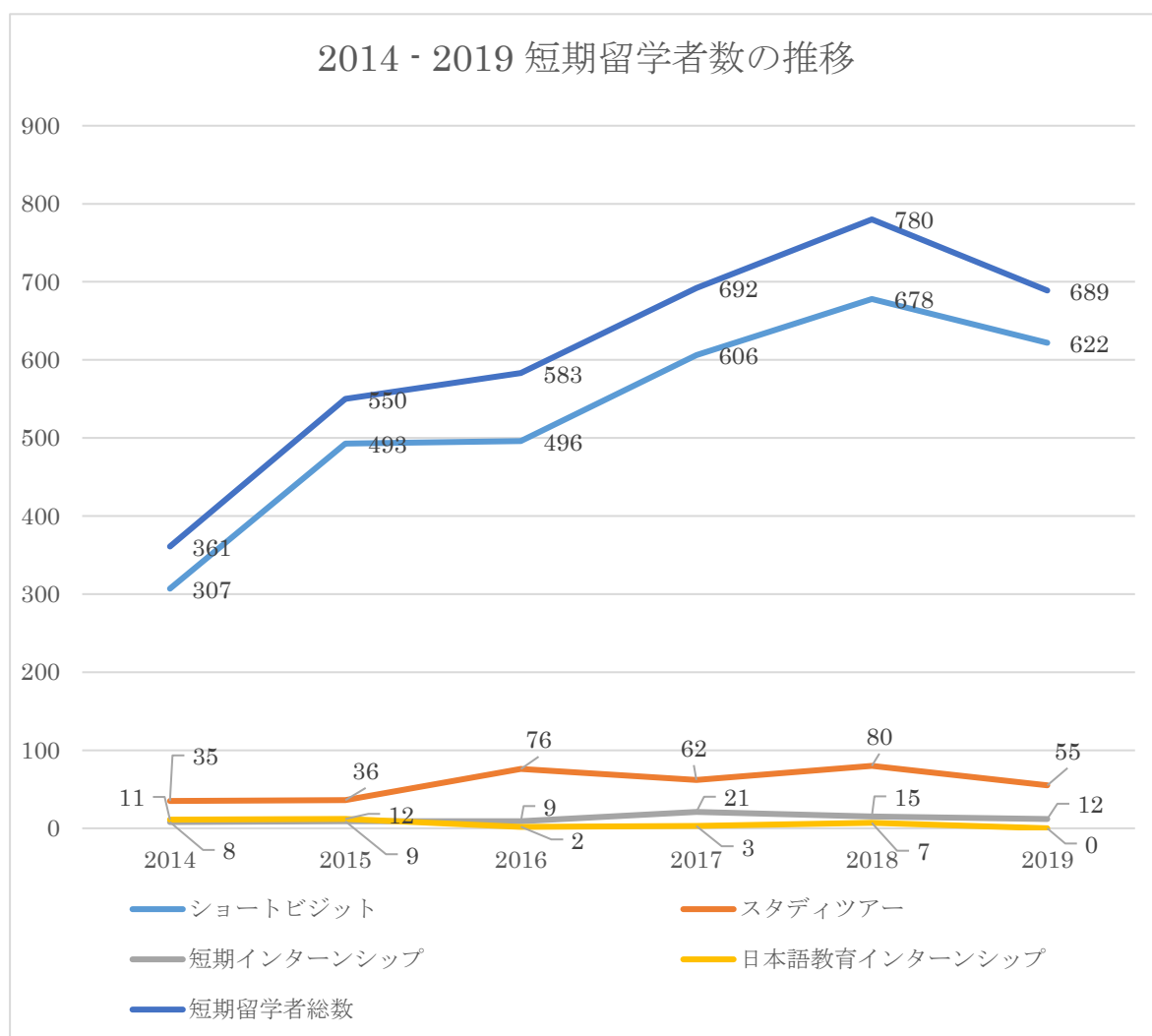
③留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

短期 Table3（再掲）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ショートビジット	307	493	496	606	678	622
スタディツアー	35	36	76	62	80	55
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689

2019年度は新型コロナウイルスの影響により、一部のショートビジットプログラムが中止となったほか、ウズベキスタンへのスタディツアー、および、台湾への日本語教育インターンシップが中止となりました。その影響により留学者数が減少しています。

短期 Table4 (再掲)



本学のショートビジット制度は2011年にはじまり、「留学白書」の作成を始めた2014年度より、世界教養プログラム「短期海外留学科目」に再編成され、単位認定のシステムが確立されました。2015年度よりクォーター制が導入され、夏学期は7月中旬、冬学期は1月下旬からと、それまでより早い時期から留学が可能になったことや、プログラム数の増加もあり、ショートビジットについては、年々参加者が増えてきていましたが、2019年度は初めて減少しました。これは新型コロナウイルスの影響によるものが大きいと考えられます。スタディツアーについても、予定していたプログラムが中止となり、今年度のスタディツアーの参加者は前年度の80名から55名へと減っています。当初予定通りにスタディツアーが実施されていれば、昨年度と同水準の参加者となるどころでした。

④留学先地域別・留学種類別短期留学者数

短期留学者を地域別・種類別にみると、多い順にヨーロッパ、東南アジア、北米となっています。

短期 Table5 留学先地域別・留学種類別短期留学者数

留学先地域	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インタ ーンシップ	日本語教育 インターンシップ	合計
ヨーロッパ	242	0	1	派遣実績なし	243
東南アジア	88	11	9		108
北米	70	34	0		104
東アジア	47	4	2		53
南アジア	34	6	0		40
ロシア・中央アジア	38	0	0		38
オセアニア	38	0	0		38
中東	30	0	0		30
中南米	18	0	0		18
アフリカ	17	0	0		17
総計	622	55	12		689

*2カ所に渡航した場合は最初に渡航した地域で数える

⑤留学先地域別短期留学者数の経年変化

2014年度から2019年度までの地域別短期留学者数は以下のとおりです。

短期 Table 6 留学先地域別短期留学者数の経年推移

留学先地域名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ヨーロッパ	107	175	168	209	214	243
北米	65	90	106	120	116	104
東南アジア	60	84	93	112	131	108
東アジア	20	38	62	71	116	53
中南米	0	9	37	13	23	18
ロシア・中央アジア	16	25	35	39	53	38
中東	20	31	28	42	41	30
オセアニア	12	23	21	51	28	38
アフリカ	7	9	17	18	25	17
南アジア	0	9	16	17	33	40
留学者数合計	361	562	583	692	780	689

全般的に人数が増えています。昨年度から、南アジア（インド）へのショートビジット先（ザバーン・ランゲージ・インスティテュート）が確保されたことにより、2017年度に比べると留学者が大きく増えています。東アジアへの短期留学者数が大きく減少していますが、これは、冬学期ショートビジットの時期に、中国、韓国で新型コロナウイルスの感染が急速に拡大したことの影響です。

⑥留学先国別・留学種類別短期留学者数

国別に短期留学者数をみると、以下のとおりです。世界各国、46の国・地域に散らばっていることがわかります。

短期 Table 7 留学先国別・留学種類別短期留学者数

番号	国名	ショートビジット	スタディツアー	短期インターンシップ	合計
1	アメリカ	40	34		74
2	アイルランド	59			59
3	インド	34	6		40
4	イギリス	34			34
5	カナダ	30			30
6	スペイン	27			27
7	ロシア	24			24
8	イタリア	23			23
8	中国	21		2	23
10	タイ	18		2	20
10	フィリピン	20			20
10	フランス	20			20
10	韓国	16	4		20
14	オーストラリア	19			19
14	ニュージーランド	19			19
16	エジプト	17			17
16	ドイツ	17			17
18	イラン	15			15
18	オーストリア	15			15
18	マレーシア	1	11	3	15
21	インドネシア	10		3	13
22	ブルネイ	12			12
22	ベトナム	12			12
24	カザフスタン	11			11
25	フィンランド	10			10

26	チェコ	9			9
26	トルコ	9			9
26	ミャンマー	9			9
26	メキシコ	9			9
30	カンボジア	6		1	7
30	スイス	7			7
32	ヨルダン	6			6
33	ノルウェー	5			5
33	ポーランド	5			5
33	モンゴル	5			5
36	ベルギー	4			4
36	台湾	4			4
38	ウクライナ	3			3
38	キューバ	3			3
38	コロンビア	3			3
38	ブラジル	3			3
38	ブルガリア	3			3
38	ポルトガル	3			3
44	エストニア			1	1
44	リトアニア	1			1
44	香港	1			1
合計		622	55	12	689

留学先国・地域数 46

⑦短期留学者の単位認定状況

短期留学者の単位の認定状況は次のとおりです。

短期 Table 8 短期留学者の単位認定状況

留学種類	単位認定なし	単位認定あり	総計
ショートビジット	8	614	622
スタディツアー	0	55	55
短期インターンシップ	10	2	12
合計	18	671	689

ショートビジットは本来単位認定がありますが、認定なしの8人については、留学には参加しましたが、在学中最後の冬学期の留学であるか、または年履修単位の制限である50単位を超える履修となるために、単位の認定がありませんでした。

⑧短期留学者の奨学金受給状況

短期留学者の奨学金の受給状況は次のとおりです。

短期 Table9 短期留学者の奨学金受給状況

留学種類	JASSO	学校推薦インターンシップ ^o 助成金	国際教育支援基金	奨学金なし	総計
ショートビジット	364		3	255	622
スタディツアー			4	51	55
短期インターンシップ		8		4	12
合計	364	8	7	310	689

2018年度はJASSOの奨学金受給者が357人でしたが、2019年度は7人増えて364人に奨学金が支給されました。ショートビジット参加者の6割弱に奨学金が給付されたこととなります。スタディツアーの中で、「国連の活動とキャリア」については、本学国際教育支援基金より、4人に奨学金が支給されました。

⑨短期留学と交換留学者の相関について

2019年度に交換留学に出発した学生261名のうち、ショートビジット等の短期留学を経験した上で出発した学生は、その76%にあたる、198名でした。

交換留学者数	短期留学経験者数	割合
261	198	75.9%

多くの学生が長期留学に行く前に、短期留学の経験をしていることがわかります。短期留学の経験が長期留学に対するモチベーション向上に寄与することが伺えます。

4. 大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 534 人（2019 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

院 Table 1. 大学院生の留学種類別長期留学状況

	2017 年度出発、 2019 年度帰国	2018 年度出発、 2019 年度帰国	2019 年度出発、 2020 年度帰国	2019 年度出 発、帰国	合計
フィールドワーク	0	0	1	4	5
交換	0	5	2	2	9
自由留学	2	3	5	2	12
長期インターンシップ	3	2	3	1	9
合計	5	10	11	9	35
出発年度ごと合計	5	10	20		35

②大学院生の短期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	11
ショートビジット	3
スタディツアー	1
短期インターンシップ （日本語教育）	9
留学者合計	24

長期留学においては休学をして留学をする自由留学の人数が多くなっています。大学院生が休学をして留学をする場合については、単位認定の制度はありません。

短期留学では大学院生の短期の研究留学を支援する、Joint Education Program 制度（p.8 参照）を利用して留学をする学生が多くなっています。短期インターンシップは、国際協力基金との連携による日本語パートナーズ派遣事業による派遣です。

③大学院生の奨学金受給状況

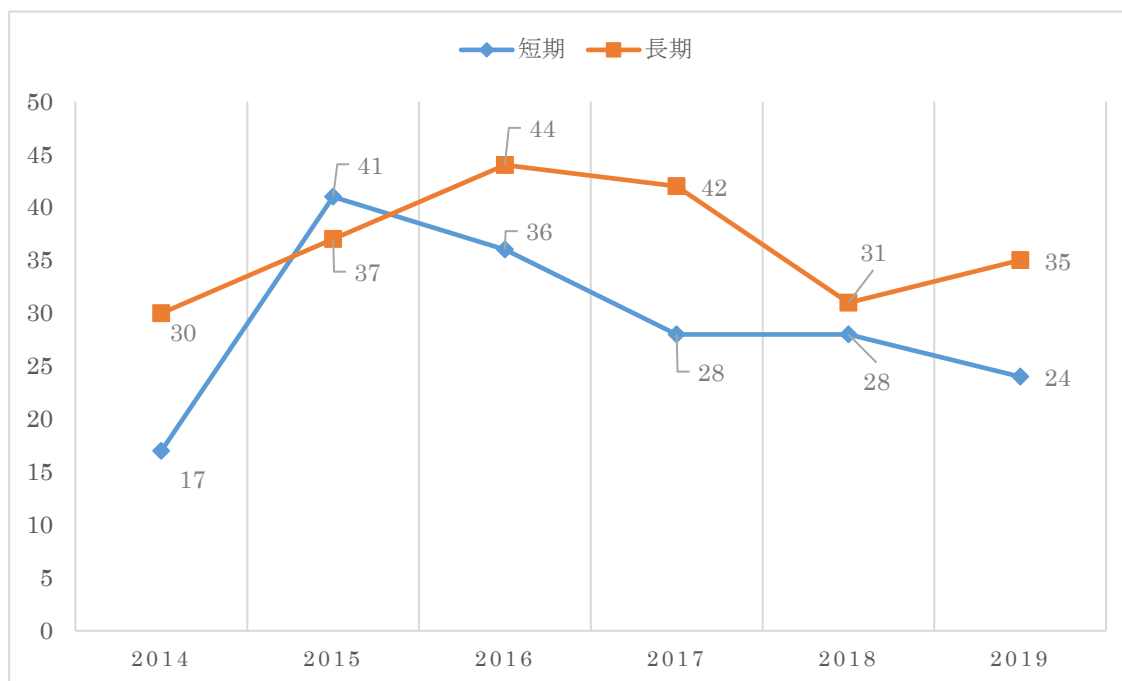
短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 3. 留学種類別奨学金受給状況

期間 奨学金名称	短期				長期				合計
	JEP	ショートビジット	スタディツアー	インターンシップ	フィールドワーク	交換	自由留学	長期インターンシップ	
フランス政府奨学金+JASSO						1			1
JASSO	8	2				8			18
The Watanabe Trust Fund							1		1
オーストリア政府給付留学生							1		1
フランス政府奨学金・JASSO長期派遣							1		1
恵国際交流財団奨学金							1		1
フルブライト奨学金							1		1
国際教育支援基金	3								3
国際交流基金 (日本語パートナーズ)				9				1	10
奨学金なし		1	1		5		7	8	22
留学者合計	11	3	1	9	5	9	12	9	59

学部生同様、長期留学では交換留学の形で留学をする学生の奨学金受給率が高く、2019年度8名がJASSOの奨学金、1名がフランス政府奨学金+JASSOの奨学金を受給して留学しています。短期のインターンシップは、国際交流基金の大学連携日本語パートナーズ派遣事業のため、渡航費・生活費などは国際交流基金から支弁されています。また、長期インターンシップでは奨学金なし、となっていますが、在外公館派遣員などで海外渡航するものもあり、現地で報酬を得ているケースもあります。

院. Table 4 2014年度から2019年度の大学院生の期間別留学者数の推移



大学院生の留学者数においては、長期において若干増加しましたが 2016 年度の水準までは及びません。大学院生 534 名のうち、46%にあたる 245 名が留学生であることも影響しますが、引き続き大学院生の留学者数を増やすことが課題です。

V. 2019 年度学部卒業時点での留学状況について

2019 年度には、786 名の学部生が卒業しました。786 人の留学状況をまとめると以下のようになります。

留学回数	人数	2 回以上留学者数
0	160	261
1	365	
2	210	
3	46	
4	5	
合計	786	261

※休学を伴わない私的な短期の留学等は対象外としています。

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合は、2017 年度が 24.8%、2018 年度が 32.1%で、2019 年度は 33.2%となりました。

①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学経験者数	短期のみ経験者数
1	365	233	132
2	210	182	28
3	46	43	3
4	5	5	0
合計	626	463	163

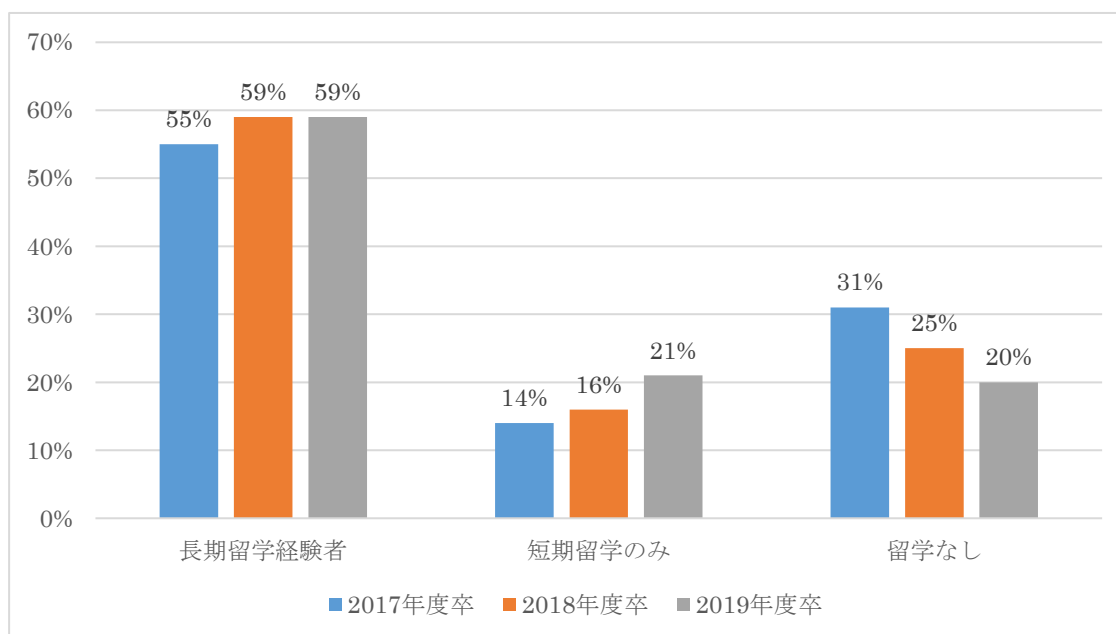
このデータから、留学をした学生のうち 74%は長期留学を経験しており、全体の卒業生 786 名のうち 59%の学生が長期留学を経験したことがわかります。

③2017 年度、2018 年度と 2019 年度の卒業生の留学状況の比較

2017 年度、2018 年度、および 2019 年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業生数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業生数に対する割合を比較します。ここ 3 年で、長期留学経験者、短期留学のみの経験者、いずれも割合は増加傾向にあり、1 回も留学しない学生の割合は、2017 年度と比較すると、2019 年度は 10 ポイント以上減りました。何らかの形で在学中に留学を経験する学生が増えていることを示していると言えます。

留学種類	2017 年度卒	2018 年度卒	2019 年度卒
長期留学経験者	399 (55%)	474 (59%)	463 (59%)
短期留学のみ	102 (14%)	132 (16%)	163 (21%)
留学なし	226 (31%)	201 (25%)	160 (20%)
合計	727 (100%)	807 (100%)	786 (100%)



VI.SGU 指標 (2020年6月 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学のSGU構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

文科省定義：

・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。

・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数(A)については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数(D)は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数(5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性									
①日本人学生に占める留学経験者の割合									
年度	H25	H26	H27	H28		H29	H30	R01	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
単位取得を伴う 海外留学経験者 数(A)(人)	119	393	699	748	750	845	972	847	1486
うち女性(人)					578	607	738	590	
うち学部(B) (人)	119	386	669	744	723	825	948	837	1460
うち女性(人)					558	593	722	583	
うち大学院 (C)(人)	0	7	30	4	27	20	24	10	26
うち女性(人)					20	14	16	7	
全学生数(D) (人)	3979	3960	4019	3998	3989	3988	3972	3982	3830
うち女性(人)					2589	2597	2597		
うち学部(E) (人)	3667	3654	3737	3662	3685	3670	3694	3693	3494
うち女性(人)					2427	2432	2431		
うち大学院 (F)(人)	312	306	282	336	304	318	278	289	336
うち女性(人)					162	165	166		
割合(A/D)%	3.0	9.9	17.4	18.7	18.8	21.2	24.5	21.3	38.8

割合 (B/E) %	3.2	10.6	17.9	20.3	19.6	22.5	25.7	22.7	41.8
割合 (C/F) %	0	2.3	10.6	1.2	8.9	6.3	8.6	3.5	7.7
教員の指導の下、 3ヶ月以上研究 派遣された大学 院生数 (G) (人)	32	23	25	38	40	41	30	35	52
割合 (G/F) %	10.3	7.5	8.9	11.3	13.2	12.9	10.8	12.1	15.5
日本国籍を有する正規学生数（全学生数）と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。 また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。									

本学定義：

単位取得を伴う海外留学経験者数 (A) について

・①学部生(女性)：単位認定をした日本国籍の交換留学 113(77)、休学留学 23(18)、ショートビジット 603(418)、スタディツアー53(40)、日本語教育インターンシップ(単位認定あり)0(0)→792(553)

大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学 0(0)、国際機関インターンシップ 0(0)、大学院生向け TUFs Joint Education Program 8(5)、日本語教育インターンシップ 0(0)、ショートビジット 2(2)、スタディツアー0(0)→10(7)

・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える→学部 +91(63)、大学院 0(0)

・③2から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの(学部 46名(33)、大学院 0(0))を差し引く。

以上を合計すると、学部生：847(590)

大学院 (C) について

大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学 0(0)、国際機関インターンシップ 0(0)、大学院生向け TUFs Joint Education Program 8(5)、日本語教育インターンシップ 0(0)、ショートビジット 2(2)、スタディツアー0(0)→10(7)

・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える→大学院 0(0)

・③2から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの→大学院 0(0))を差し引く。

以上を合計すると、大学院生：10名(7)

教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数 (G) について

単位取得の有無は問わない。

3ヶ月以上派遣された大学院生(交換、自由、フィールドワーク、長期インターン)をカウント。35名

◆SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。

・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注 2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注 3) 日本人学生 (A) の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注 4) 全学生数 (B・D) は学校基本調査の定義を引用 (2019 年 5 月 1 日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性									
②大学間協定に基づく交流数									
年度	H25	H26	H27	H28		H29	H30	R01	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	871	819	950	1093	1069	1672
うち女性					612	664	854	753	
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	722	566	676	737	690	1442
うち女性					444	477	611	477	
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	144	232	258	324	360	200
うち女性					155	180	222	264	
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	4	18	12	23	10	26
うち女性					12	6	17	7	
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	1	3	4	9	9	4
うち女性					1	1	4	5	
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4597	4721	4690		4414	4671
(うち女性)					3097	3051			
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	18.9	17.3	20.3		25.1	35.8

本学定義：

大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計 (716 (495)) し、協定に基づき二度の留学をして 2 回とも単位認定をしている学生 (26 (18)) を差し引く。

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。→690 (477)

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出 352 (258)。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生 8 (6) を加える。→360 (264)

うち単位取得を伴う大学院生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学 0 (0)、ショートビジット 2 (2)、協定校への JEP (非協定校除く) 8 (5)、協定に基づき二度の留学をして 2 回とも単位認定をしている学生 (0) を差し引く。→10 (7)

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

うち単位取得を伴わない大学院生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出 9 (5)。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える 0 (0)。→9 名 (5)

◆独自指標

(指標3) 留学 200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍は問わない。また、単位取得の有無は問わない。

(指標4) 本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。

大学独自の成果指標と達成目標									
<定量的>									
年度	H25	H26	H26	H28		H29	H30	R01	R05
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
(指標3) 留学 200% 達成者 (%)	0	1.0	11.1	20	10.9	24.8	33.2	34.7	90
(指標4) 本学学生の 全世界的展開 (人)	447	751	1039	970	1111	1613	1656	1582	1740
うち北米	44	112	134	100	156	216	200	179	147
うち欧州	183	254	374	300	361	536	526	559	462
うちロシア/中央アジア	66	71	81	120	89	119	114	115	178
うちアフリカ	1	14	20	10	29	55	56	56	50
うち中近東	20	43	49	60	46	81	72	163	145
うち東南アジア	45	114	151	100	156	256	276	239	205
うち南アジア	1	21	24	40	20	32	56	64	113
うち東アジア	69	83	138	140	145	168	222	166	256
うち中南米	11	15	32	70	70	70	81	77	134
うちオセアニア	7	24	42	30	39	80	53	64	50

資料編